

日販連通信

発行者：日本販売農業協同組合連合会

中塚 敏春

第 28 号
2011 年 8 月 20 日 発行

住所：〒151-0053
東京都渋谷区代々木2-5-5
新宿農協会館
電話：03-3375-6399 Fax：03-3375-6637
Eメール：info-agricoop@pearl.ocn.ne.jp

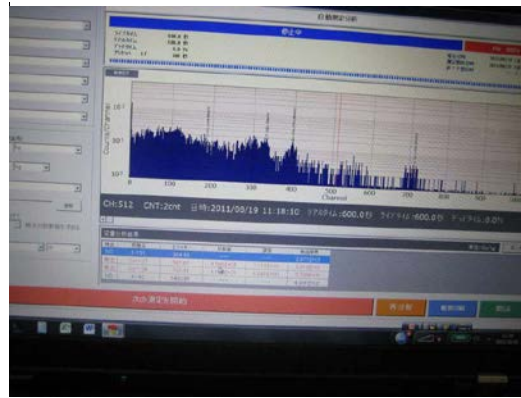
堆肥の放射能検査が始まりました

「堆肥の製造、使用、譲渡の自粛」通達の解除
に役立つ

これ以上田畑の汚染レベルを上げない対策を

農民連食品分析センター





農民連食品分析センターでは、従来の携帯型のNaIシンチレーションサーベイメータに加えて、緊急時に現場への移動も可能な「食品放射能測定システム CAN-OSP-NAI」を導入しました。これは水、牛乳、土、堆肥など、液体から固体まで簡単に計測でき、ヨウ素131、セシウム134、セシウム137の3核種を同時に計測し、Bq/kgで検査結果を出します。

今般農水省では「高濃度の放射性セシウムが含まれる可能性のある堆肥等の施用・生産・流通の自粛について」、「放射性セシウムを含む肥料・土壌改良資材・培土及び飼料の暫定許容値の設定について」を発出し、土壌のこれ以上の汚染を起さないこと、基準値超過の野菜が栽培されないよう通知し、基本的に堆肥、肥料は400Bq/kg、飼料は300Bq/kg(いずれもセシウム134、セシウム137の合計)を基準値としました。自粛解除には堆肥の放射線検査がどうしても必要です。

群馬県あがつま農協の生協産直に取り組む「北軽井沢産直の会」では牛堆肥の検体を提出し、8月19日に早速検査を依頼しました。群馬県内では牧草が300Bq/kgを超えたり、基準値を超えた稲わらが給餌されたり、同農協管内でも牧草から180Bq/kgが検出されたりで、堆肥の汚染を心配する声が出ていました。半減期が長いために汚染した堆肥を施肥するたびに、土壌が汚染されてしまうので最後には野菜作りができなくなります。

検査結果は基準値以下で問題無しでした。しかし、高い線量の原料があっても、その原料の配合比率が低い場合は計測値が低くなることがありますので低くても安心できません。さらに高い計測値の場合には、どの原料に付着して混入したかの汚染経路の特定を必ず行う必要があります。牛糞、樹皮、おが粉、稲わらなど追跡調査して、汚染原因の除染、原料変更も必要です。周辺の牧草の計測値が事故直後より低くなっていますが、放射性物質が無くなったわけではありませんので、十分注意が必要です。

農民連食品分析センターの八田純人所長は「堆肥や米など膨大な検査が迅速に行われる必要があります。30Bq/kg程度の検出限界になりますが、1検体10分ぐらいで検査結果が出ますので農家の要望には十分応えられます。計測時間を長くすれば5Bq/kgの検出限界ぐらいまで精度を上げることができますので、食品、野菜、水物などにも対応できます」と説明してくれました。

お知らせです

農民連食品分析センターで放射能測定を開始しました。

★ 食品放射能測定システム(製品名)の概要

①型名 日立アロカメディカル株式会社 CAN-OSP-NAI
NaI(Tl)シンチレーション検出器

②測定試料 米、牛乳、水、野菜、土壌、肉類、など液体から固体まで分析できます。

③検出限界 ヨウ素 131、セシウム 134、セシウム 137 をそれぞれ核種別に 30 ベクレル /Kg まで分析できます。

農民連会員以外で、検査をご希望される産地、農家の皆様は本会にお問い合わせください。

おおさかパルコープ、大阪よどがわ市民生協が 茨城県やさと農協に見舞金贈呈

より深い相互理解と長いおつきあいを



おおさかパルコープの奥井和久常務ほか4名と大阪よどがわ市民生協の山本明一常務が8月20日、茨城県やさと農協を訪問し、生協組合員の気持ちを是非お受取くださいと今般の災害に対する見舞金を届けました。

大阪の両生協とやさと農協は有機野菜の9年にわたる産直を通じて、組合員間の交流をしてきました。両生協は「大阪の生協組合員さんが、何か私たちにできることは無いかと被災地支援に積極的に取り組んできました。実際に訪問して、産地の被災状況、復興への取り組み、生産現場をじっくり学んで組合員さんに報告したい」と訪問の目的を語りました。やさと農協有機栽培部会の岩瀬部会長は「遠く大阪からわざわざご心配をいただき本当にありがたい」とお礼を述べ、廣瀬専務は「茨城県の米の放射能汚染が一番心配ですが、やれることはなんでもやって消費者には今まで以上に安心、安全な食べ物を届けたい」と復興に向けての意気込みを語りました。

両生協の代表者は農協の研修農場「ゆめファーム」を訪問し、有機栽培に取り組む若い生産者に栽培技術や土作りについて細かく質問をしていました。おおさかパルコープの高橋職員は土に直接手を当てて「有機の畑の土は本当にやわらかい」と感動し、土作りについて岩瀬部会長の説明に聞き入っていました。

みなさまのご意見・ご感想をお待ちしております。 アドレス: info-agricoop@pearl.ocn.ne.jp